

模型が完成しました【建造物装飾模型製作研修会】



社寺建造物美術協議会では、平成22年から26年の5年間をかけて、漆塗り・彩色・丹塗り・金具の4部門で一つの模型を完成させるべく取り組んでまいりました。各部門の技術を集大成した模型製作を通し、技術者の技術の継承と錬磨を目指すためです。

完成までに計24回の会議や研修を行い、のべ245人の研修生が関わりました。平成26年10月21日には「完了報告会」を開催し、完成検査とこれまでの模型研修の歩みを振り返りました。

この模型は、京都市文化財建造物保存技術研修センター（京都市東山区）に設置され、センターの開館時間には一般の方々にも自由に御覧いただけます。



側面（漆）



側面（丹）



背面（工程）

● 平成26年度 年間事業報告 ●

平成26年	活動 (●は国庫補助事業)	場 所
5月8日	全国文化財保存技術連合会 理事会 出席	
5月14日	●建造物装飾模型製作研修 金具検討会議	(有)川面美術研究所
5月17日	第1回通常総会	京都府 京都センチュリーホテル
6月10日	漆部門 理事会	京都府
7月31日	京都府文化財所有者等連絡協議会 総会 出席	京都府 ルビノ京都堀川
8月23日	文化財修理技術保存連盟 編集会議 出席	京都府
9月1日～12日	●後継者養成実技研修 (関西)	(株)さわの道玄
9月12日	文化庁訪問 (漆に関するヒアリング)	東京都 文化庁
9月20日～21日	●建造物装飾修理用資材検討調査研修会 ●会員研修会	栃木県 日光東照宮陽明門他修理現場 茨城県 久慈郡大子町
9月20日	臨時総会	栃木県日光市
9月24日～10月4日	●後継者養成実技研修会 (関東)	(株)小西美術工藝社
10月6日～10日	●建造物装飾模型製作研修会 単色塗	京都市文化財建造物保存技術センター
10月14日～17日	●建造物装飾模型製作研修会 桐油彩色Ⅰ期	京都市文化財建造物保存技術センター
10月18日・20日	●建造物装飾模型製作研修会 桐油彩色Ⅱ期	(有)川面美術研究所
10月21日	●建造物装飾模型製作研修会 完了報告会	京都市文化財建造物保存技術センター
10月25～26日	日本の技体験フェア ふれてみよう! 文化財を守り続けてきた匠の技 展示・実演	岩手県 もりおか歴史文化館、盛岡城跡公園
10月25日	漆に関する保存団体連絡会 会議 出席	同上
10月25日	全国文化財保存技術連合会 会議 出席	同上
10月29日	漆実験のヒアリング	京都府 (独)京都市産業技術研究所
11月1日～2日	ふるさと文化財の森 文化財建造物保存活用公開セミナー 展示・実演	京都府 清水寺境内、 京都市文化財建造物保存技術センター
12月2日	京都府文化財所有者等連絡会研修会 出席	京都府 佛教大学宗教文化ミュージアム宗教文化 シアター
12月5日	全国文化財保存技術連合会 編集会議 出席	京都市文化財建造物保存技術センター
12月5～7日	漆サミット2014 in 京都 講師として出席	京都府 京都府立大学 石清水八幡宮 丹波漆林
12月6日	世界遺産「古都京都の文化財」登録20周年記念事業実 行委員会 文化財修復技術体験コーナー 展示・実演	京都府 国立京都国際会館
平成27年		
1月26日	漆部門 理事会	京都府 京都タワーホテル
1月30日	文化財修理技術保存連盟 編集会議 出席	京都府

会長より

平素は社寺建造物美術協議会の活動にご支援、ご協力賜
わりましてありがとうございます。

今年度は巻頭にも書いておりますように、5年間かけた
建造物装飾模型が完成いたしました。この研修には多くの
方のご指導、ご協力をいただきました。

社寺建造物美術協議会始まって以来、各部門、各事業所
が一体となって、一つの物を作り上げた事は初めての経験
でした。他部門の方々とのコラボレーション、監修の先生
との技法の議論、どれも思い出深いものとなりました。

漆冊子も2年間かけての刊行となります。まだまだ未熟
な部分がございますが、今後より一層充実した活動に
なっていくますよう努力する所存でございます。

平成27年度も宜しくご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。
荒木かおり

総会報告

第1回通常総会（平成26年5月17日）

於 京都センチュリーホテル（京都市）

内容 ・平成25年度事業報告及び決算報告

・平成26年度事業計画及び予算承認

・会則変更

他

臨時総会（平成26年9月20日）

於 高井家（栃木県日光市）

内容 ・次期会長選出

・平成26年度活動報告

平成27年社寺建造物装飾技術者事業計画（国庫補助事業）

1. 建造物装飾修理用資材検討調査研修会＜対象：中級・上級技術者＞

漆や膠、地金などの建造物装飾の修理に欠かせない材料についての研究・調査や、講師を招いてその現状、
問題点を検討し改善策をたて、今後の修理に活かす。

2. 後継者養成実技研修会

各種美術・工芸教育機関と連携し、文化財建造物装飾に関心のある若手技術者を会員各事業所にて受け入
れ、実際の仕事を体験してもらうことで、将来の技術者養成に繋げる。また会員事業所内の初任者も対象
とし、基本技術の修得を目指す。

3. 会員研修会＜対象：会員＞

各地の古社寺を訪ねて、伝統的建造物に於ける装飾分野の研鑽を深め、日本文化へのさらなる広い視野を
もった人材を養成する。

4. 固有技術向上研修会

4-1) 建造物装飾総合技術研修（対象：中級・上級技術者）【初年度】

漆・彩色・金具等の複合した建造物装飾技術を駆使した模型作りを行う。今回は、前年度製作完了した江
戸初期の様式を踏襲した初級者対象の模型製作ではなく、中・上級技術者を対象にその分野における学識
経験者を招聘し、技術の粋を結集した実技研修を行う。

製作した模型は展示会等で公開し、建造物装飾の技術や保存への理解を広く世に伝える。

4-2) 「漆」・「丹塗、彩色」・「金具」各専門分野の技術研修会、調査検討会を実施。

○動画編集

（前年度建造物装飾模型製作研修で撮影した実技研修の編集）

○報告書と会報「すいかずら」による研修事業の成果報告。（年1～2回発行）

① 伝承者の育成

② 技術・技能の練磨

③ 刊記録作成

「建造物装飾模型製作研修会」

巻頭ページにもあるように、今年は模型製作の最終年度でした。今年度は、チャン塗り、金具、単色塗り、桐油彩色の研修を行い、各工程を表現した手板も作成しました。



チャン塗り研修 (手板製作)

期 間：平成26年5月
講 師：齋藤敏彦 (有齋藤漆工芸)
研修生：吉成光臣 (有齋藤漆工芸)



金具研修 (図案検討会、原図製作、金具製作、手板製作)

期 間：平成26年6月～12月
監 修：窪寺茂 (社寺建造物美術協議会 技術顧問)
参加者：大谷哲秀 (株大谷相模掾鑄造所) 擬宝珠製作
森本安之助 (株森本銕金具製作所) 銅金物製作
横山智明 (有横山金具工房) 鉄金物製作



単色塗り研修 (模型製作)

期 間：平成26年10月6日～10日
講 師：片山龍馬 (株片山)
研修生：若林生恵 (株さわの道玄)
*単色 (胡粉、黄土、丹、丹土、弁柄、墨)



桐油彩色研修Ⅰ期、Ⅱ期 (模型製作、手板製作、桐油吹き)

期 間：Ⅰ期：平成26年10月14日～17日 Ⅱ期：10月18日、20日
講 師：澤田了司 ((公財)日光社寺文化財保存会)
横田敏行 (株小西美術工藝社)
研修生：春日俊吾 (有川面美術研究所)
中澤梢 (株小西美術工藝社)
森本佳世子 (株さわの道玄)
*桐油彩色とは、桐油を溶剤とする彩色

「建造物装飾模型完了報告会」

期 間：平成26年10月21日 京都市文化財建造物保存技術センター

プログラム：①開会の挨拶（会長 荒木かおり）

②「模型製作 各技術についての総括」（技術顧問 窪寺茂）

③研修生の所感発表

④「研修事業についての全体総括」

（文化庁文化財参事官〔建造物担当〕付文化財調査官 岡本公秀氏）

⑤講演「床の間の発展と日本文化（文化財建造物の意義について）」

（顧問 江面嗣人）

⑥閉会の挨拶（副会長 澤野道玄）



窪寺先生総括



岡本調査官講演



江面先生講演

「後継者養成実技研修会」

各種美術工芸教育機関と連携し、文化財建造物装飾に関心のある若手技術者を会員各事業所にて受け入れ、実際の仕事を体験してもらうことで、将来の後継者養成に繋げることを目的としています。今年度は（株）さわの道玄、（株）小西美術工芸社が受け入れ事業所となり、研修を行いました。

期 間：平成26年9月1日～12日（計10日間）

受入事業所：（株）さわの道玄

研 修 生：玉田奈都美（京都伝統工芸大学校）

【受入事業所 講師所感】
 （株）さわの道玄では、工房での研修となりました。主に、保存修復、彩色作業に準ずるものとなりました。天井画洗浄補彩、阿弥陀坐像、脇侍の洗浄、表具彩色型紙作成、撮影、書類資料作成等の作業を担ってもらいました。特に洗浄作業は平面の天井画、立体物の台座、御像、またそれぞれの素材によって使用する材料も異なり、修復という仕事の一面を感じてもらえたのではないのでしょうか。文化財やものの自体、使用する材料をどのよう
 に考えていくか、どのようにに実際の作業、施工にあたり、その資料としていくかを学ぶきっかけになればと思っております。



玉田奈都美

期 間：平成26年9月24日～10月4日（計10日間）

受入事業所：（株）小西美術工芸社

研 修 生：高橋勝也（ものづくり大学）

【受入事業所 講師所感】
 （株）小西美術工芸社では、初日には修理工事の中の日光東照宮陽明門、輪王寺三仏堂の現場見学を行いました。二日目からは、都内現場にある模型のクリーニング及び剥落止め作業を行いました。銅版の屋根瓦、斗拱、金具のクリーニング等を行ってもらいました。細かい部材でありながら本物と変わらぬ装飾と、先人の素晴らしい技術に触れることができたと思います。
 今後、建造物装飾の業界で仕事をしていくうえでも良い経験になったのではないかと思います。



高橋勝也

「建造物装飾修理用資材検討調査研修会」・「会員研修会」

期 間：平成26年9月20日・21日

場 所：20日 輪王寺本堂（三仏堂）、日光東照宮陽明門修理現場他
21日 茨城県久慈郡大子町

講 師：20日 原田正彦氏、岡崎玄得氏、廣田浩一氏（（公財）日光社寺文化財保存会）、林直樹氏（（株）小西美術工芸社）
21日 松田容幸氏（大子町農林課）、矢崎孝子氏、大神隆一郎氏（NPO 法人 麗潤館）、辻徹（日本文化財漆協会）、飛田祐造氏（大子漆保存会）、益子たえ氏（大子町漆掻き職人）

研修生：片山富夫（（株）片山）、荒木かおり、多田牧央（（有）川面美術研究所）、岸野直資（岸野美術漆工業（株））、齋藤敏彦、齋藤卯乃、吉木光太（（有）齋藤漆工芸）、澤野道玄、高橋健造（（株）さわの道玄）、武井祥司、太田洋志（（一財）塩尻・木曾地域地場産業振興センター）、田鹿秀夫、楽満康文、臺具視、大田正光（（株）はせがわ美術工芸）、呂田佳子（呂田漆芸（株））、森本安之助（（株）森本銕金具製作所）



輪王寺本堂



日光東照宮



大子町における話し合い



集合写真

今回は「建造物装飾修理用資材検討調査研修会」と「会員研修会」を同時開催いたしました。

研修1日目は、（公財）日光社寺文化財保存会と（株）小西美術工芸社のご協力を得て、輪王寺本堂（三仏堂）、日光東照宮陽明門等の修理現場を見学しました。輪王寺本堂（三仏堂）では、修理方針の変遷が説明されると共に、虫害調査、大規模な燻蒸、木部の特殊修理等、文化財修理にまつわる事例が数多く紹介されました。陽明門では、オリジナルの桐油彩色等の珍しい技法が間近で見ることができ

き、貴重な機会となりました。

2日目は、漆の産地として有名な茨城県久慈郡大子町を訪れました。大子町で漆に関わる方々にお集まりいただき、大子町の漆に関する取り組みについて伺うと共に、漆の現状について話し合いました。また、NPO法人「麗潤館」、漆器のギャラリ「器而庵」の見学や、漆畑にて漆樹の様子等を視察しました。

日本の技体験フェア

ふれてみよう！文化財を守り続けてきた匠の技

期間：平成26年10月25日・26日
 場所：もりおか歴史文化館（岩手県）
 内容：展示、壁飾り製作（金具技術体験）
 担当：(株)小西美術工芸社

「日本の技体験フェア」は、文化庁主催の様々な技を持つ国内の選定保存技術団体が展示や実演、体験コーナーを通じてそれぞれの技術を広く一般の方に知っていただくというものです。

当協議会では、会の解説や各部門の説明を展示で紹介しました。また、5団体（NPO法人日本伝統建築技術協会・文化財豊保存会・（二財）全国伝統建具技術保存会・全国文化財壁保存技術会・社寺建造物美術協議会）の回遊式体験を実施し、「壁飾りづくり」を体験していただきました。当協議会では水銀鍍金された銅板に好みの鑿を打つ、「鑿打ち体験」と、四方へ鍔鋏を打付ける「鋏打ち体験」を担当しました。



ふるさと文化財の森

文化財建造物保存活用公開セミナー

期間：平成26年11月1日・2日
 場所：清水寺境内、京都市文化財建造物保存技術センター
 内容：展示、絵手紙彩色・金箔押し体験コーナー
 担当：(株)片山、(株)さわの道玄、(有)川面美術研究所

「文化財建造物保存活用公開セミナー」では、森林資材に関わる複数の選定保存技術団体が実演・体験・見学コーナーを設けています。

当協議会は、文化財建造物保存技術センターにてパネルによる解説や模型・手板、材料・道具を展示し、伝統的な建造物の装飾（丹塗り、漆塗り、彩色）の仕事を紹介しました。

清水寺境内では、彩色を施した模型や金箔のパネルなどを展示しながら、1日目は絵手紙彩色、2日目は金箔押しを一般参加者に体験していただきました。両日とも残念ながら雨でしたが、外国人観光客も含め、多くの参加者で賑わいました。



文化財修復技術体験コーナー

世界遺産「古都京都の文化財」登録20周年事業

期間：平成26年12月6日
 場所：国立京都国際会館
 内容：展示、絵馬彩色、金箔押し
 担当：(有)彩色設計、(有)川面美術研究所

京都市主催の世界遺産登録20周年を記念した催しの関連企画として、当協議会は子どもを対象に文化財修復の体験コーナーを担当いたしました。

彩色の説明や金箔ができる工程のパネルや、道具の展示を行うと共に、体験コーナーは、絵馬の彩色と金箔押しの2種類を用意しました。絵馬はクリスマスツリーやリース、ひつじ等の絵柄を用意し、季節感があつて子ども達にも親しみやすい工夫をしました。金箔押しコーナーでは、お箸や携帯電話のケース等の普段の生活に使うものに金箔を押し、金箔押しを身近に感じていただきました。

たくさん家族連れで賑わい、活気ある体験となりました。



社寺建造物美術協議会 名簿

平成27年3月

No.	企業名 (正会員)	氏名	所在地	電話番号 FAX 番号
1	(一社) 天野山文化遺産研究所	山内 章	586-0086 大阪府河内長野市天野町997	0721-55-3772 0721-55-3776
2	(株)大谷相模掾鑄造所	大谷哲秀 (大谷秀一)	537-0011 大阪市東成区東今里2-6-20	06-6971-6571 06-6971-6511
3	(株) 片 山	片山富夫	601-8303 京都市南区吉祥院向田東町10	075-322-1236 075-316-6333
4	(有)川面美術研究所	荒木かおり	616-8242 京都市右京区鳴滝本町69-2	075-464-0725 075-464-0099
5	岸野美術漆工業(株)	岸野 勲	321-1404 栃木県日光市御幸町587-2	0288-53-3366 0288-54-0072
6	(株)小西美術工藝社	デービッド・アトキンソン	108-0014 東京都港区芝4-4-5 三田KMビル3階	03-5765-1481 03-3455-9250
7	(有) 彩色 設 計	小野村勇人	615-8072 京都市西京区桂木ノ下町25-8	075-201-4582 075-201-4582
8	(有) 齋 藤 漆 工 芸	齋藤敏彦	250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原1285-381	0460-84-2802 0460-84-0770
9	(株) さ か い	酒井清裕	520-2331 滋賀県豊洲市小篠原7-1	0775-87-1178 0775-87-5355
10	(株) さ わ の 道 玄	澤野道玄	604-8232 京都市中京区錦小路通油小路東入る空也町491	075-254-3885 075-254-3886
11	(一財)塩尻・木曾地域 地場産業振興センター	小口利幸	399-6302 長野県塩尻市木曾平沢2272-7	0264-34-3888 0264-34-2832
12	(有) 島 津 漆 工 房	島津達也	671-1602 兵庫県たつの市揖保川町野田263-1	0829-56-3658 0829-56-3658
13	(株)はせがわ美術工芸	井上貫治 (田鹿秀夫)	822-0011 福岡県直方市大字中泉今林885-26	0949-24-7211 0949-24-7221
14	(株)細川社寺巧藝社	細川夫美子	651-2242 兵庫県神戸市西区井吹台東町1-5-13-301	078-997-7178 078-997-7179
15	邑 田 漆 芸 (株)	邑田正廣	607-8355 京都市山科区西野大鳥井町118-45	075-591-4137 075-502-0638
16	(株)森本鋳金具製作所	森本安之助	600-8321 京都市下京区楊梅通西洞院東入る 八百屋町59	075-351-3772 075-361-8877
17	(有)横山金具工房	横山智明	601-8394 京都市南区吉祥院中河原北町14-3	075-325-4861 075-325-4862
No.	企業名 (賛助会員)	氏名	所在地	電話番号 FAX 番号
1	(株)堤 淺 吉 漆 店	堤 孝	600-8098 京都市下京区間之町松原上ル稲荷町540	075-351-6279 075-351-6270
2	ナカガワ胡粉絵具(株)	中川晴雄	611-0013 京都府宇治市菟道池山24番地	0774-23-2266 0774-20-4666
3	NPO 法人 丹 波 漆	岡本嘉明	629-1302 京都府福知山市夜久野町今西中710番地	090-6244-4363
4	NPO 法人 麗 潤 館 (平成26年度 新賛助会員)	矢崎孝子	319-3526 茨城県久慈郡大子町大子705	0295-76-8777 0295-76-8779

賛助会員紹介

NPO 法人 丹波漆 (京都)

私たちNPO法人「丹波漆」は、年間100本を目指した漆木植栽と、漆掻き技術の伝承を主な活動としています。

京都府北西部に位置する夜久野町は、古くから日本でも有数の漆の産地で、質の良い「丹波漆」を産出することで知られていました。今でもその漆掻きの伝統を守り、受け継いでいます。この継続した活動が認められ、平成3年、「丹波の漆かき」として京都府無形民俗文化財に指定され、平成21年には文化庁から夜久野の植栽地が「ふるさと文化財の森」に設定されました。

しかし現在、漆掻きができる樹木が少なく、大量に生産することができないため、漆苗を植えることに専念すべく、平成16年より本格的に植栽活動を行っています。漆植栽に適地化するには人力・経費もかかり、シカよけの金網張りなど害獣対策も必要で、毎年ボランティアの方々も借りて植栽・整備活動を進めています。

京都は、文化財の社寺仏閣や京蒔絵、京仏具などの伝統工芸が多くあります。このような文化を守るためにも、丹波漆を絶やすことはできません。後継者育成にも力を注ぎ、伝統技術を継承しながら、良質な漆の生産向上を目指しています。

また、興味を持っていただいた皆様には是非参加していただきたい「漆植樹祭」や「丹波漆を使った作品展」など様々なイベントも企画しています。

これらの私たちの活動は、漆の世界だけでなくとどまらず、文化財に意識をもつていらっしやる多くのの人々の協賛を得なければ、成り立ちません。

今後とも、私たちの活動にご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。



平成24年より夜久野に移り住んだ漆掻き後継者 竹内耕祐

社寺建造物美術協議会

事務局 〒616-8242
京都市右京区鳴滝本町69-2 (有)川面美術研究所内
Tel:075-464-0725 Fax:075-464-0099



26年度も皆さまのご協力のおかげで、予定通り各事業を実施することができました。模型製作が5年の歳月を経て完成しました。この研修を通じ、多くの人が協力し一つのものを作り出す苦勞と喜びを改めて感じました。これからも技術継承そして後継者養成といった課題にむけ、会員相互の活発な討議をかさね取り組んでまいります。(Y)